

3.文献データベースの活用



この章からは、先行研究調査のもう1つのアプローチとして、文献データベースの活用について紹介していきます。

Google・Google Scholar・生成AIの限界

網羅性

- 収録範囲や選定基準が不明確
- 重要文献の見落としを防げない

検索性

- 検索条件や絞り込み機能に限界がある
- 検索結果の表示基準が分かりにくい

信頼性

- 書誌情報が不十分な場合がある
- 生成AIは誤情報（ハルシネーション）の可能性はある

その他

- Googleは学術文献以外の情報も多い
- 生成AIは入力データの取扱いに注意が必要



先行研究調査では文献データベースを基本とし、
Google・Google Scholar・生成AIは補助的に利用しましょう

14

先行研究調査に、Google や Google Scholar、生成AIを使えないのかという疑問をお持ちの方、あるいは、もうすでに使っているという方もいらっしゃるのではないのでしょうか。

ここではそれらのツールの限界を図に示しています。

未知の分野の概要をつかんだり、検索キーワードを考えたりする際には便利なツールですが、先行研究調査では「できるだけ漏れなく、正確に文献を集めること」が重要です。そのため、これらのツールだけに頼るのではなく、文献データベースを基本として利用する必要があります。

文献データベースを使い分ける



文献データベースとは

- 学術文献を探すための検索サービス
- 学術文献を対象を限定
- 検索・絞り込み機能が充実
- 先行研究調査の基本ツール



使い分けが重要

- 日本語文献／海外文献
 - 図書／雑誌論文
 - 人文社会系／自然科学系
- ➔ 目的に応じて利用するデータベースが異なる

15

Googleのような検索エンジンとは別に、世の中には、学術文献の検索に特化した専門のデータベースが多数存在します。

検索・絞り込み機能が充実しているのは有料のデータベースに多い特徴ですね。

最近では、データベースにAI機能が搭載されているものも増えてきました。

また、検索する学術文献が、どの研究分野の文献か、日本語文献か海外文献か、図書か雑誌論文かといった点によって、使うべき文献データベースは異なってきます。

対象による使い分けがあるというのは、一般的な情報検索と同じです。

例えば、「お店の場所を探すときは地図アプリ」を使い、本を探すときには書店のWebサイトや図書館の蔵書検索システムを使いますよね。

探したいものによって使う検索サービスが違うのと同じように、学術文献を探すときも、研究分野や資料の種類によって適切な文献データベースを選ぶ必要があります。

文献データベースの役割

文献データベースの本来の役割

文献情報（書誌情報）の検索・整理

関連文献の発見

PDFや全文閲覧は付加的な機能

PDFや全文へのリンクは、提供できる範囲に限られる

PDFが表示されなくても利用できる場合がある

PDFの有無だけで文献の重要性は判断できない

よくある誤解

PDFが表示されない = 読めない ではない

PDFが表示される = 重要な文献 でもない

先行研究調査の第一段階は、重要な文献を漏れなく見つけること。
そのために、「検索」と「入手」を分けて考えましょう。



16

文献データベースを使うとき、「PDF（全文）が見られるかどうか」に注目してしまう人が少なくありません。

しかし、本来の役割はPDFの提供ではなく、研究テーマに関連する文献の書誌情報を検索し、関連文献を発見することにあります。

文献データベースによっては全文へのリンクが表示されますが、それは付加的な機能です。契約状況や公開条件によって、PDFが表示されない文献も数多くあります。

だからと言って、その文献が読めないわけではありません。図書館で所蔵していたり、文献複写サービスで入手できたりする場合があります。

逆に、PDFが表示されているからといって、その文献が重要であるとも限りません。

先行研究調査でまず大切なのは、重要な文献を漏れなく見つけることです。

そのためには、「文献を検索すること」と「文献を入手すること」を別の段階として考える必要があります。

まずは必要な文献を見つける。その後で入手方法を考える。この順番を意識しましょう。

4.文献データベースによる 日本語図書の研究調査



ここからは、文献データベースを使った、日本語図書の研究調査について解説していきます。

適切なデータベースの選択：図書

図書を探すためのデータベース

基本的には「どこに本があるか」を調べるためのもの
図書として出版された先行研究の調査にも利用できる
所蔵機関によって利用するデータベースが異なる

日本の学術書の 先行研究調査	探したい資料	データベース
	大阪大学の蔵書	大阪大学OPAC
おすすめ	国内の大学図書館	CiNii Books
	公共図書館	カーリル
おすすめ	国立国会図書館	NDLサーチ
	海外の図書館	WorldCat

18

図書を扱うデータベースは、多くの場合、「どこにその本があるか」を調べるための蔵書検索システムとして利用されます。
一方で、先行研究が図書の形で出版されている場合には、その調査にも活用できます。ただし、所蔵機関によって利用するデータベースは異なります。
大阪大学の蔵書を検索できるものもあれば、国内外の複数の図書館の蔵書をまとめて検索できるものもあります。
そのため、「どこの蔵書を探したいのか」に応じてデータベースを使い分けることが重要です。

日本語の学術書の先行研究調査には、まず CiNii Books と NDLサーチを利用するとよいでしょう。
大学図書館は研究・教育に必要な資料を収集しているため、学術書を探す場合はまず CiNii Books を利用するのが基本です。
阪大OPACは大阪大学の所蔵資料だけが対象ですが、CiNii Booksには大阪大学の所蔵情報も含まれています。
先行研究調査では、まず CiNii Books を使う方が効率的です。
また、国立国会図書館には国内出版物を収集・保存する納本制度があるため、NDLサーチも有力な調査先になります。

図書を検索するときのポイント

現状：図書検索の特徴

図書の検索は、書名・著者名・件名など限られた情報が中心
入力したキーワードと一致しなければ見つからないことがある
図書は扱う範囲が広く、書名にはより広い概念が使われることが多い

対策：検索のコツ

同義語・類義語を考える

上位語・下位語を考える

特に「**上位語**」（ある概念を含むより広い概念）で検索する

調べたいテーマを含む、より広い概念でも検索してみる



図書は特定のトピックではなく、
そのトピックを含むより広いテーマで出版されることが多い

19

現状、図書の検索に使うデータベースでは、詳細な本文検索は期待できません。基本的に、書名や著者名、件名に含まれるキーワードでしか検索できないと考えていただくのがよいと思います。

そして、図書を検索するときは、論文を検索するときよりも、注意深くキーワードを選択しなくてはなりません。

同義語や類義語だけでなく、広い概念の上位語、より狭い概念の下位語なども検討してみましょう。

とくに大切なのが「上位語」です。論文にくらべて、図書は扱っている内容の分量が多く、思いついたキーワードよりも広い概念が図書のタイトルになっていることが多いです。

たとえば、論文だと「ChatGPTの教育利用」のように、具体的なキーワードがタイトルに現れやすい一方、図書はより広い範囲を扱うため、『人工知能』、『教育工学』のような上位概念がタイトルになっていることが少なくありません。そのため、入力したキーワードでの検索結果が思ったより少ない場合は、上位の概念にあたるキーワードで、再度検索してみてください。

CiNii Booksについて <https://ci.nii.ac.jp/books/>

AND, ORなどの論理演算子の検索も可能

「内容検索」タブに切り替えると目次や内容説明の検索可

- ただし、あくまで目次データを持っている資料が対象
- 目次データの収録範囲は主に1986年以降の新しい図書



大阪大学のネットワークから利用すると便利

- 大阪大学の所蔵が一覧の先頭に表示される
- 大阪大学の所蔵の有無を一目で確認できる
- キャンパス外の利用にはCiNiiの画面から機関でログイン
学認フェデレーションから「大阪大学」を選択し、個人IDでログインしてください

※次スライド参照



では、CiNii Booksについて紹介します。

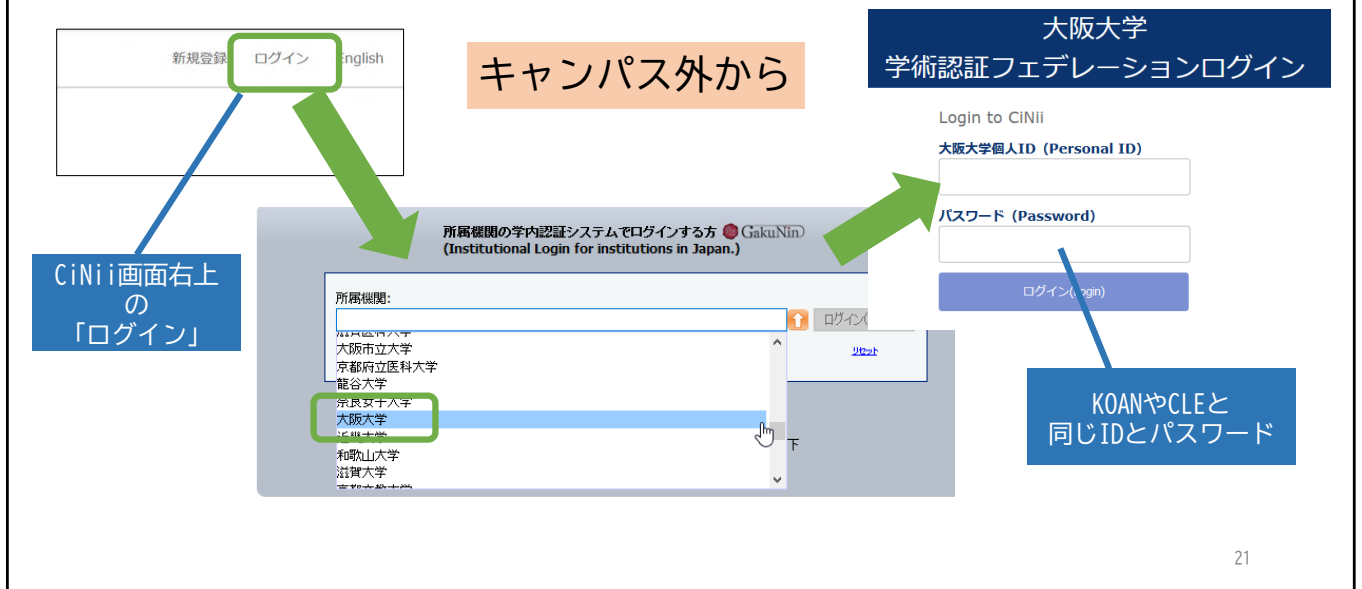
CiNii Booksでは「図書・雑誌検索」タブが初期選択されています。この状態では基本的には書名・著者名・出版社名などでしか検索できません。ここから、「内容検索」タブに切り替えると、目次や内容説明を検索できる資料が増えます。

「図書・雑誌検索」タブでの検索でヒットする資料が少ない場合は、「内容検索」タブを試してみても良いでしょう。ただし、全ての資料に対して目次を検索出来ているわけではないので注意が必要です。

CiNii Booksでは、AND、ORなどの論理演算子を使うことができます。論理演算子については最後の5章で説明します。

また、大阪大学のネットワークからCiNii Booksを利用すると、大阪大学の所蔵が一覧の先頭に表示されます。阪大にあるかどうかを一目で確認できるので便利です。キャンパス外からの利用にはログインが必要です。方法は次の画面をご覧ください。

[参考] CiNii Booksで阪大所蔵資料を発見しやすくする



キャンパス外からアクセスしたときも、大阪大学の所蔵を一覧の先頭に表示することが可能です。
表示する方法としてはこのスライドのとおりで、CiNii Books画面右上の「ログイン」から、所属機関に大阪大学を設定し、大学の個人IDでログインしてください。

NDLサーチについて <https://ndlsearch.ndl.go.jp/>

一部の資料は目次が検索できる

- 目次データの収録範囲は「1987年以前」の比較的古い資料
- 検索の際に「資料種別」を絞り込まない

AND, ORなどの論理演算子が見える



デジタル化資料にアクセスできる

「NDLデジタルコレクション」

- 絶版になった古い学術書
- 戦前・戦後の研究書
- 入手困難な資料

CiNii Booksは学術書を探すための基本ツール、NDLサーチは、CiNii Booksで見つからない資料を補完するツールとして使い分けしてください。



22

次にNDLサーチ、国立国会図書館の蔵書検索システムについて紹介します。こちらにも、基本的には書名・著者名・出版者名で検索できるシステムですが、一部の資料については目次と一緒に検索できます。

NDLサーチの目次データの収録範囲は、1987年以前の古い資料が中心ですが、論文集に含まれる個々のタイトルが検索できたり、最近の図書でも目次でヒットすることがあります。目次を検索したいときには、資料種別を絞り込まないようにしてください。

NDLサーチの特徴の一つは、国立国会図書館デジタルコレクションをはじめとする各種デジタルアーカイブを横断的に検索できることです。

特に、戦前・戦後の学術書や絶版・品切れなどで入手が難しくなった資料はデジタル化されている場合があります。

CiNii Books が主に大学図書館等の所蔵資料を探すためのサービスであるのに対し、NDLサーチは国立国会図書館の資料やデジタル化資料も含めて探すことができます。そのため、CiNii Books で見つからない場合や、デジタル化された資料の有無を確認したい場合に活用してください。